



一般財団法人 北海道農業近代化技術研究センター

第51回 地域活性化推進事業

講演会

ロボット農業などスマート農業に関する最先端技術を研究

北大大学院教授 野口 伸 氏

スマート農業の現状と今後の展開 ーICTとロボットによる次世代農業ー



世界初の技術～ロボットトラクタ3台による協調作業

と き：平成29年11月15日(水) 13:30～15:30

ところ：プラザホテル板倉 深川市3条6番7号

主 催：一般財団法人 北海道農業近代化技術研究センター

後 援：北海道空知総合振興局 深川市・滝川市・妹背牛町

J Aきたそらち・J A北いぶき・J Aたきかわ

水土里ネット：深川土地改良区・神竜土地改良区・空知土地改良区



ごあいさつ

一般財団法人 北海道農業近代化技術研究センター
理事長 細越 良一

本日は、「地域活性化推進事業」にご参加をいただき、誠にありがとうございます。

当財団におきましては、公益事業の一つとして、毎年、農業や食などをテーマに講演会やシンポジウムなどを開催しておりますが、お陰様をもちまして、今回で51回目を迎えることができました。これも、ひとえに皆様のご支援・ご協力のたまものと、深く感謝申し上げます。

今年は、生物環境情報工学、農業ロボット工学がご専門の北海道大学大学院教授野口伸様を講師にお迎えし『スマート農業の現状と今後の展開－ICTとロボットによる次世代農業－』と題しご講演をいただきます。

最近の農業生産では、先端技術の導入によって、より省力で高品質生産の実現が期待されています。

野口先生は、農作業の自動化・ロボット化やリモートセンシング等の研究を行うとともに、それらの技術のシステム化を進めることで、農業現場での実用化に取り組まれています。すでに新聞、テレビなどを通して圃場での無人ロボットトラクタ走行の実演をご覧になった方も多いと存じます。野口先生は、まさにこの分野での第一人者としてご活躍中の方でございますので、今日は貴重なご示唆をいただけるものと確信しております。

当財団は、昭和40年に深川・滝川・妹背牛の農業者の皆様によって設立されて以来、地域農業の振興を図るため、食の安全・安心の基本となる土や水などの農村環境の保全や農業農村整備に関わる技術研究などに取り組んで参りました。しかしながら、諸外国との経済連携の進展や自由貿易交渉などによる影響が懸念されるとともに、米の生産調整についても来年度から見直しが行われるなど、農業を取り巻く情勢は一層厳しさを増しております。このようなことから、今後は生産者と消費者が一体となって農業を守り育てる、そうした仕組みづくりにも積極的に取り組んで参りたいと考えております。

結びになりますが、今後とも、当財団の事業の推進に、一層のご理解とご協力をたまわりますようお願い申し上げます、開会に当たってのご挨拶といたします。

次 第

開 会

主催者挨拶 (一財) 北海道農業近代化技術研究センター 理事長 細越 良一

来賓挨拶 北海道空知総合振興局 副局長 綾部 勉 様

講演 北海道大学大学院 教授 野口 伸 様

閉 会



ご講演内容

スマート農業の現状と今後の展開 ーICTとロボットによる次世代農業ー

- 北海道大学ビークルロボティクス研究室
- 日本農業の現状と課題
- 内閣府SIP「次世代農林水産業創造技術」
- ロボット普及に向けたロードマップ
- スマート農業普及に向けた自治体の役割



野口 伸 氏 プロフィール

● 専門：生物環境情報学，農業ロボット工学

● 最終学歴

北海道大学大学院農学研究科博士課程修了，1990

● 職歴

北海道大学大学院農学研究科 教授，2004－現在。

日本学術会議会員，2005－2014；連携会員，2015－現在。

内閣府戦略的イノベーション創造プログラム

「次世代農林水産業創造技術」プログラムディレクター，2016－現在。

● 海外における主な学術活動

イタリア ポローニャクラブ 会員，2010－現在。

中国農業大学 客員教授，2011－現在。

中国西北農林科技大学 客員教授，2012－現在。

● 学会活動

日本生物環境工学会 会長，2011－2016；理事長，2017－現在。

農業情報学会 副会長，2007－現在。

日本農業工学会 理事，2006－現在。

● 主な学術表彰（2010以降）

農業機械学会論文賞（2010），日本生物環境工学会特別国際学術賞（2011），北海道大学研究総長賞（2012），Distinguished Visiting Fellowship Award (Royal Academy of Engineering, UK)（2012），農業情報学会フェロー（2013），宇宙開発利用大賞内閣府特命担当大臣（宇宙政策）賞（2013），日本生物環境工学会フェロー（2013），日本生物環境工学会論文賞（2014），日本農業工学会賞（2015），日本農業工学会フェロー（2015），日本農学賞（2016），読売農学賞（2016），農業情報学会新農林社国際賞（2016），北海道科学技術賞（2017），北海道総合通信局長表彰（2017）

財団事業のご紹介

当財団は、昭和40年に深川市、滝川市、妹背牛町の農業者により設立されて以来、農業農村整備や農村環境保全に関する様々な調査研究を行って参りましたが、最近では、これらに加え、地元農産物のブランドイメージの確立に向けた直売市の開催や地産地消等に取り組む団体への助成、農業後継者の育成支援などにも取り組んでいます。

■ アンテナショップ構想の推進

北空知・中空知「新鮮農産物直売市」の開催

地域ブランド力を高めるため、深川・滝川・妹背牛の3市町の農産物及びこれらの加工品を販売する直売市を、財団の札幌支所NKエルムビル1階で昨年に引き続き開催しました。

- ・北空知・中空知「新鮮農産物直売市」(7月、8月、10月、11月、計8日間)
- ・東日本大震災チャリティミニ直売市(8月～9月、計6日間)

直売市スペースの貸出し

財団が直売市として利用しているスペースを、道内の市町村や農業者等が組織する団体にも、広く活用していただくため、無料で貸出しています。

今年度で開催された直売市は以下のとおりです。

- ・ふかがわ農産物フェア(2日間)・日高管内水産物直売会(1日間)
- ・しんとつかわ農産物フェア(8日間)・北竜町特産品展示販売会(5日間)

なお、直売市スペースの有効活用のため、芸術・文化や地域コミュニティ活動など営利を目的としない団体・個人に低料金を貸し出しました(計17日間)。

■ 首都圏での米の販売促進活動の推進

東京高島平団地で新米ふっくりんこを配布

北海道米の知名度アップを図るため、10月29日に板橋区高島平団地において新米ふっくりんこのサンプル米配布活動を行いました。

■ 農業者の情報発信を支援

農家看板設置事業

深川市、滝川市、妹背牛町に在住する農業者及び農業者グループを対象に、農家名や生産情報などを記載した看板設置に助成しています。

ホームページ作成事業

消費者との交流促進や農業情報発信のためのホームページ作成・管理を無料で行っています。

■ 農村後継者の育成を支援

深川市、滝川市、妹背牛町にお住まいの認定農業者(配偶者を含む)及び農業後継者を対象に、海外農業研修への助成を行っています。

- ・方式：日本農業新聞が実施する海外農業研修視察団へ参加
- ・実施時期・内容：平成29年10月(ヨーロッパ)、11月(アメリカ)・(東南アジア)：受付終了
平成30年2月(ヨーロッパ)



北空知・中空知「新鮮農産物直売市」



ふかがわ農産物フェア



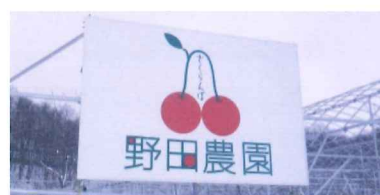
しんとつかわ農産物フェア



北竜町特産品展示販売会



首都圏での米の販売促進活動



農家看板設置事業

一般財団法人 北海道農業近代化技術研究センター

深川事務所 〒074-1271 深川市広里町4丁目1番3号 TEL: 0164-25-1591 FAX: 0164-25-2117
ホームページ <http://www.hamc.or.jp/>